

民主的高校教育  
名古屋大学教授  
佐々木

この進歩の激しさが、そんなところにもあらわれているわけです。しかし、われわれ教師の育つた頃は必ずしもそうでなかつたわけですから、なかなかそういう認識をもちきれない状況があるようです。それがよくあらわれたのは、日本教育工学振興会が出した『新教育機器教育方法開発研究報告書』という調査です。これは、パソコン、ワードプロセッサ、ビデオディスクという三つの新しい機器が、日本の学校にどうくらいいつていてるかを、昨年十月現在で調べたもの。ところが、このうち、ビデオの中曾根首相の人種差別発言あるいは女性蔑視発言は、よくご存知のとおりです。こいつの演説の少し前に別のところではやはり似たような演説をやつして、そのなかで、「いまわれわれは第二の産業革命の時代に生きている」と言っています。主には、半導体技術の進歩とコンピュータを強調し、同時にコンピュータ技術の進歩を、SDIに結びつけて議論しているのです。人種差別、女性蔑視の問題がクローズアップされ（それは大変重要なことです）、第二の産業革命論がSDIにまで定義にはいろいろ議論のあるところです。

さて、今年の九月二十二日で与えている。

タローディオディスクプレイヤーの生産統計を見ると、五十九年に登場したばかりのオーディオディスクが、六十一年秋にはレコードプレーヤーと逆転した。今年に入つてしまわれわれは第二の産業革命の時代に生きている」と言つて停滯状況になつていま

タが売りこまれる、とコントラストがつく。コンピュータ生産は今年同時期は八十五万台。日本にはレコード盤とCD盤の製作が逆転するという状況になつていて、出はじめで二年もたた

つぎはファクシミリ。ふうに理解すべきでしょ

く出ています。ファクシミリをもつと普及させようとしたところも出てきました。電話機にファクシミリを非常に急速な勢いで入つたところも出てきました。

は、どこにそう思つわけです。たとえば、アメリカの「フオーチューン」という雑誌によれば、コンピュータ技術であるかどうかもあやしげです。は、今のところまだアメリカがトップだが、オプトエレクトロニクス(光電子工学)の分野では日本が追い抜いていくらしいが生きているということを、やはり、確認すべきではないか。日本の科学・技術は、どこに進歩のテンポが早い時代にいたうえで回答して下さらなかつたのかな、という点です。

確かにまだ量的には少ないし、それが教材として意義があるのですが、しかし、調べる必要はあるのではないか。そういうと呼ばれる「超小型」(たゞ三百万円以下程度のもの。除外)を中心についへん急速の統計は五十九年からとはじめたのですが、五百六十三万台、六十年百

# 科学・技術の進歩と「情報化」

科学・技術の進歩  
の様相と「情報化」

輸出規制したことになったわけです。電子計算機、関連装置の生産も伸びが著しく、また猛烈な勢いで輸出されています。昨年の統計はほとんどすべてのものがマイナスになつたのに、コンピュータだけはプラスになつてゐる。しかし、アメリカのコンピュータの市場が停滞しているなかで、日本ME化の問題。それを象徴しているのはロボットです。日に新聞を読むことができない状況になつてゐる。このように、情報化といふのは、コンピュータ・プラスコミュニケーション、從来の通信メディアとコンピュータが結びつけられたもの、と理解するといふのではないかと思います。

